

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
地域がん登録精度向上と活用に関する研究	津熊 秀明	調査部長	23,000	補委	厚生労働省
保健・医療機関受診者を対象とした禁煙支援方法の開発と評価に関する研究	田中 英夫	調査課長	12,050	補委	厚生労働省
喉頭機能を温存した頭頸部がんの標準的治療法の確立に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	12,050	補委	厚生労働省
頭頸部がん治療の標準化に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	800	補委	厚生労働省
日本人女性の乳がん発症リスクに対する新しいロジスティック回帰モデルの臨床への応用	菰池 佳史	乳腺・内分泌外科副部長	11,500	補委	厚生労働省
骨転移の標準的治療指針確立の研究	荒木 信人	整形外科主任部長	1,200	補委	厚生労働省
臨床病理像からみた早期肺がんの治療法に関する研究	児玉 憲	副院長	1,200	補委	厚生労働省
がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究	今岡 真義	総長	800	補委	厚生労働省
大腸がん術後感染症予防に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	800	補委	厚生労働省
臨床的予後因子による肝転移予測	大植 雅之	消化器外科副部長	1,000	補委	厚生労働省
地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究	淡田 修久	副院長	1,000	補委	厚生労働省
乳房温存療法の適応の適正化の検討	稻治 英生	乳腺・内分泌外科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
進行肺がんに対する化学療法	今村 文生	呼吸器内科主任部長	900	補委	厚生労働省
がん登録における情報ネットワークの活用に関する研究	井岡 亜希子	調査課主査	1,500	補委	厚生労働省
がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究	中山 富雄	疫学課長	800	補委	厚生労働省
成人難治性造血器腫瘍に対する非血縁者間の同種造血肝細胞移植法の確立に関する研究	平岡 諒	血液化学療法科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
肺がんの臨床病理学的研究	東山 聖彦	呼吸器外科主任部長	700	補委	厚生労働省
がん治療におけるIRVの技術向上と標準化に関する研究	杉原 英治	放射線診断科医長	500	補委	厚生労働省
効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度化に関する研究	大島 明	がん相談支援センター所長	1,500	補委	厚生労働省
革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究	中山 富雄	疫学課長	21,300	補委	厚生労働省
新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断制度の向上に関する研究	中山 富雄	疫学課長	3,000	補委	厚生労働省
がん罹患、死亡動向の実態把握の研究	井岡 亜希子	調査課主査	1,200	補委	厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	井岡 達也	検診部消化器検診科副部長	3,000	補委	厚生労働省
院内がん登録の標準化と普及に関する研究	津熊 秀明	調査部長	500	補委	厚生労働省
がん患者の医療機関受診に関する動態調査	津熊 秀明	調査部長	9,700	補委	厚生労働省
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	荒木 信人	整形外科主任部長	2,100	補委	厚生労働省
頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する標準的手術法の確立に関する研究	藤井 隆	耳鼻咽喉科副部長	1,500	補委	厚生労働省
WEB版がんよろず相談システムの構築と活用に関する研究	柏木 雄次郎	脳神経科部長	200	補委	厚生労働省
進行胃がんの生存率を向上させる標準的治療法の開発に関する研究	宮代 勲	消化器外科副部長	500	補委	厚生労働省
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究	飯石 浩康	診療局長兼消化器内科部長	800	補委	厚生労働省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
早期前立がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	宇佐美 道之	泌尿器科主任部長	300	補委	厚生労働省
切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科主任部長	600	補委	厚生労働省
限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科主任部長	1,000	補委	厚生労働省
大腸がん肝転移症例の術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	600	補委	厚生労働省
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	700	補委	厚生労働省
臨床病期Ⅲの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	大植 雅之	消化器外科副部長	1,500	補委	厚生労働省
第Ⅳ期食道がんに対する標準的治療法の確立に関する研究(H17-がん臨床一般-007)	矢野 雅彦	消化器外科主任部長	500	補委	厚生労働省
肉腫および悪性中皮腫を標的破壊する腫瘍溶解性ウイルスベクターのシードストックおよび臨床ロットの製造とその安全性・有効性に関する研究	高橋 克仁	研究所病態生理学部門長	18,788	補委	厚生労働省
疾患関連たんぱく質解析研究事業	今岡 真義	総長	19,500	補委	厚生労働省
C型肝炎の状況・長期予後の疫学像の解明に関する研究	田中 英夫	調査課長	10,000	補委	厚生労働省
がんの早期診断および予後診断に役立つ腫瘍マーカーの開発	東山 聖彦	呼吸器外科主任部長	350	補委	厚生労働省
BCG-CWを用いた抗がん免疫応答の再構築とそのメカニズム	赤澤 陸	研究所分子遺伝学部門	2,000	補委	文部科学省
癌が分泌する乳酸によって免疫応答が増強されるメカニズムの解明	志馬 寛明	研究所分子遺伝学部門	2,000	補委	文部科学省
オートファジーを介した放射線増感作用の研究	遠藤 洋子	研究所生化学部門	1,000	補委	文部科学省
転写因子制御による遺伝子放射線治療	中村 聡明	放射線治療科	1,600	補委	文部科学省
核内ドメインへ蛋白をチャットする新規蛋白MORC3とそのファミリー	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門長	1,300	補委	文部科学省
骨軟部腫瘍の進展に関与する分子SSXを標的とした治療法の開発	吉岡 深子	研究所生物学部門主任研究員	1,300	補委	文部科学省
難治性肉腫および悪性中皮腫に対する標的遺伝子療法の開発	山村 倫子	研究所主任研究員	1,000	補委	文部科学省
IGF・PK・mTORシグナルの抑制を中心とした癌の低酸素耐性機構の解明	井上 正宏	研究所生化学部門長	2,100	補委	文部科学省
転写因子PBX1を介した抗アポトーシス経路と転移との関連の解明	富田 裕彦	病理・細胞診断科主任部長	1,800	補委	文部科学省
骨芽細胞の運動制御と臨床応用	伊藤 和幸	研究所生物学部門長	1,600	補委	文部科学省

計52件

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endoscopy 2007; in press.	Infrared endoscopic system for bleeding point detection during endoscopic resection .	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2007; in press.	Endoscopic resection of the esophageal squamous cell carcinoma overlying leiomyoma.	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2007; in press.	Local recurrence of large squamous cell carcinoma of the esophagus after endoscopic resection.	Ishihara R	消化器内科
Cancer 2008; in press.	Long-term outcome of esophageal mucosal squamous cell carcinoma without lymphovascular involvement after endoscopic resection.	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2008; in press.	Quantitative analysis of the color change after iodine staining for diagnosing esophageal high-grade intraepithelial neoplasia and invasive cancer.	Ishihara R	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy. 2008; in press.	Comparison of endoscopic mucosal resection and endoscopic submucosal dissection for en bloc resection of early esophageal cancers in Japan.	Ishihara R	消化器内科
Oncology 2008;73(1-2):65-7	Phase II Study of a combination of irinotecan and S-1 in patients with	Noriya Uedo	消化器内科
Am J Gastroenterol. 2007 Aug;102(8):1610-6.	Effect of Proton-Pump Inhibitor or H2 Receptor Antagonist on Prevention of Bleeding from the Ulcer After Endoscopic Submucosal Dissection of Early Gastric Cancer: A Prospective Randomized Controlled Trial	Noriya Uedo	消化器内科
Digestive Endoscopy (2007) 18 (Suppl. 1), S131-S136	DIAGNOSIS OF COLONIC ADENOMAS BY NEW AUTOFLUORESCENCE IMAGING SYSTEM: A PILOT STUDY	Noriya Uedo	消化器内科
Gastrointest Endosc. 2007 Jul;66(1):186-93	Endoscopic submucosal dissection with insulated-tip knife for large mucosal early gastric cancer: a feasibility study (with videos)	Yoji Takeuchi	消化器内科
Int J Cancer. 2007 Sep 15;121(6):1182-9	Re-expression of sonic hedgehog and reduction of CDX2 after Helicobacter pylori eradication prior to incomplete intestinal metaplasia	Uedo N	消化器内科
Jpn J Clin Oncol. 2007 Jul;37(7):521-7	Phase I/II Study of CPT-11 plus UFT in Patients with Advanced/Recurrent Colorectal Cancer: Osaka Gastrointestinal Cancer Chemotherapy Study Group (OGSG): Protocol 0102.	Tomita N	消化器内科
Endoscopy, UCTN (2007)	Flat gastric epithelial neoplasm detected by endoscopic screening with autofluorescence imaging video endoscopy	Uedo N	消化器内科
癌の臨床 54: ;2008.	高齢者表在食道癌に対する内視鏡切除術の有用性	石原立	消化器内科
消化器外科 2008;in press.	食道癌、ESDの適応と手技	石原立	消化器内科
胃と腸 42:1309-1315;2007	食道m1,m2癌EMR後の長期成績	石原立	消化器内科
Gastroenterol endosc 2007;in press.	赤外線電子内視鏡の進歩と胃癌診断における有用性の検討	石原立	消化器内科
臨床消化器内科 23:15-20;2008	病変径による表在食道癌に対するEMRとESDの使い分け	石原立	消化器内科
胃と腸 42 1477-1482, 2007	大腸SM癌の内視鏡摘除後のfollow up	東野晃治	消化器内科
胃と腸42; 1635-45 2007	未分化型混在早期胃癌の臨床的特徴と問題点 範囲診断を中心に	竹内洋司	消化器内科
日本消化器病学会誌 2008; in press	内視鏡治療 -胃癌治療ガイドラインと適応拡大	竹内洋司	消化器内科
胃と腸 第43巻 第1号 44-50	早期胃癌ESD適応拡大病変に対する不完全切除の要因と対策	上堂文也	消化器内科
J Immunology 180, 2008.	Maintenance of long-lived plasma cells and serological memory despite mature and memory B cells depletion during CD20 immunotherapy.	Uchida J	呼吸器内科
肺癌 47. 2007.	肺癌術前リンパ節転移診断におけるコンベックス走査式超音波気管支鏡ガイド下生検 (EBUS-TBNA) の実際	今村文生	呼吸器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肺癌 47. 2007.	気管支鏡ビデオスコープを使用する蛍光気管支内視鏡画像について	今村文生	呼吸器内科
がん治療のあゆみ 27. 9-13. 2008.	III期非小細胞肺癌に対するシスプラチンとビンレルピンと3D concomitant boost法による放射線治療の同時併用療法の第II相試験	上野清伸	呼吸器内科
Intn J Hematol 86: 269-274 2007;	Unification of Hematopoietic Stem Cell Transplantation Registries in Japan and Establishment of the TRUMP System	Hiraoka A	血液・化学療法科
Intn J Hematol 86: 192-195 2007;	Donor cell-derived leukemia with t(7;11)(p15;p15) after a cord blood transplantation in a patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Hiraoka A	血液・化学療法科
Bone Marrow Transplant 40 251-259 2007;	Prophylactic fresh frozen plasma may prevent development of hepatic VOD after stem cell transplantation via ADAMTS13-mediated restoration of von Willebrand factor plasma levels.	Hiraoka A	血液・化学療法科
成人病と生活習慣病 37; 147-151 2007	外来化学療法治療継続中の日常診療注意点。	吉田均	血液・化学療法科
臨床血液 1462-1469 2007;	本邦における造血細胞移植登録の一元化と「移植登録一元管理プログラム(TRUMP)」の作成。	平岡諱	血液・化学療法科
J Mol Cell Cardiol. 43 : 54-62 (2007. Jul)	Carbacyclin induces carinitine palmitoyltransferase-1 in cardiomyocytes via peroxisome proliferators-activated receptor (PPAR) delta independent of the IP receptor signaling pathway.	Masaki M	循環器内科
Hypertens Res. 30(10) : 913-919 (2007. Oct)	Long-term oral administration of dipyridamole improves both cardiac and physical status in patients with mild to moderate chronic heart failure: a prospective open-randomized study.	Awata N	循環器内科
体外循環技術. 35: 23-28 (2008)	下大静脈浸潤癌手術における対外循環方法の検討、下静脈腫瘍栓を伴う腎癌手術におけるV-Vバイパス循環補助の有用性について。	和泉匡洋	循環器内科
Anal Biochem. 36(1):37-50 (2007)	Novel Fucogangliosides found in human colon adenocarcinoma tissues by means of glycomic analysis.	Noura S	消化器外科
Biochem Biophys Res Commun. 35(3):579-586 (2007)	Evaluation of laser microdissection as a tool in cancer glycomic studies.	Ohue M	消化器外科
Surg Endosc. 21(6):929-934 (2007)	Evaluation of the technical difficulty performing laparoscopic resection of a rectosigmoid carcinoma: visceral fat reflects technical difficulty more accurately than body mass index.	Seki Y	消化器外科
Dis Colon Rectum. 50(3): 389-394 (2007)	Castleman's disease of the rectum:report of a case.	Ohue M	消化器外科
Am J Surg. 19(1):21-25 (2007)	Total splenic vein thrombosis after laparoscopic splenectomy: a possible candidate for treatment.	Sekimoto M	消化器外科
Ann Surg. 24(5) :799-805 (2007.11)	Liver Perfusion Chemotherapy for Selected Patients at a High-Risk of Liver Metastasis After Resection of Duodenal and Ampullary Cancers.	Ohigashi H	消化器外科
日本病院会雑誌. 54(6) : 792-792(2007)	大阪府立成人病センター設立の趣旨・沿革と現状	今岡真義	消化器外科
外科治療. 97(3) :279-284 (2007)	膵癌外科治療の現状と将来	石川 治	消化器外科
跡見 裕, 上村直美, 白鳥敬子, 正木直彦. (文栄堂) 285-287(東京)	「臨床に直結する肝・胆・膵疾患治療のエビデンス」	石川 治	消化器外科
癌の臨床. 53(1) :17-21 (2007)	cStage III, IV食道がんに対する集学的治療	矢野雅彦	消化器外科
臨床消化器内科. 22(8) : 1117-1121(2007)	センチネルリンパ節生検の日常臨床への導入:多施設共同研究(1)日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)	宮代 勲	消化器外科
日本外科感染症学会雑誌. 4(2) :157-163(2007)	当センターにおける肝胆膵手術後手術部位感染の現状と課題	山田晃正	消化器外科
日本外科感染症学会雑誌. 4(3) :261-266(2007)	当センターにおける肝切除術後SSIの現状と対策	山田晃正	消化器外科
医学のあゆみ. 22(1) :69-72(2007)	膵癌に対する放射線化学療法-Neoadjuvant chemoradiationの試み-	大東弘明	消化器外科
癌と化学療法. 34(12) : 2056-2058(2007)	広大な大動脈周囲リンパ節転移を伴うS状結腸癌の長期生存の1例.	荻野崇之	消化器外科
日消外会誌. 40(12) :1972-1976(2007)	直腸肛門部癌術後に骨髄内リンパ腫から静脈血栓塞栓症を発症したと考えられた2例	荻野崇之	消化器外科